

海外語学研修と海外ビジネス研修を必修化するなど、独自のカリキュラムで高度な語学力と経営スキルを兼ね備えた人材を育成する長崎県立大学経営学部国際経営学科。採用の現場でも企業から高く評価されるその教育内容とは……。学科長の岩重聡美教授と二人の学生に聞いた。

国際社会で活躍するために 必要な思考と姿勢を育てる

なぜそうなったのか
論理的に説明できる力を

国際経営学科が養成を目指す人材像から聞かせてください。

岩重 一言でいえば、グローバル社会におけるリーダー的な人材です。個人として優秀なだけでなく、互いに尊重、理解し合いながら、状況を改善し、物事を前に進めていける。そんな力を学生たちには身に付けてほしい。コミュニケーションツールである英語の力の向上と思考や判断の基本となる経営理論の習得は、その前提だと考えています。

徹底した語学教育は国際経営学科の特徴の一つ。卒業要件もTOEIC®スコア730点以上に設定しています。

松浦 ほぼ毎日英語の授業があり、1年次にはフィリピン・セブ島で約3週間の海外語学研修も実施されます。おかげで入学時に550点ほどだったTOEIC®スコアは約半年で800点を超え、2年

景や原因に目を向け、それを論理的に説明することの大切さを折に触れ伝えていきます。価値観の異なる人が協働する国際経営の現場でリーダーの役割を担うには、エビデンスに基づく筋の通った説明で周囲を納得させる力も大事だからです。

国や地域、個人によって
「普通」とは異なるもの

海外でインターンシップを行う3年次の「海外ビジネス研修」も国際経営学科の特徴的な取り組みです。

松浦 私は、シンガポールにある日本企業の拠点で研修に参加しました。現地の学校教育をリサーチしたり、プレゼンテーションを行ったり。すべて英語で、こちらから働きかけなければ物事が進まない。でも、そんな環境のおかげで受け身になりがちだった自分の殻を破ることができました。

鈴木 今年度はコロナ禍で海外に行けませんでした。私たちが学年は学内に外交官を招いて4回のオンラインセミナーを実施しました。私はそのファシリテーターを務めたのですが、正直初回はまったく上手くいかず……。2回目からは、どうしたら活発な議論を促せるのか、悩みながらも事前の情報収集や準備を頑張りました。

岩重 海外へのモチベーションを高めてもらうための研修ですが、実は失敗を経験させることも大事な目的。学生には立

なる頃には英語のニュース番組もほぼ字幕なしで理解できるようになりました。

鈴木 ネイティブや海外経験豊富な先生も多く、プレゼンや交渉などまさに実践的な英語を学べるのが魅力。授業は「間違いを気にせず、どんどん発言を」という雰囲気、問題の答えだけでなく、いかに英語を道具として使うかという点

がより重視されます。私は今、佐世保の米軍基地内でアルバイトをしています。会話の幅が広がりました。

岩重 もちろんテストの点数も重要ですが、それはあくまで結果。授業では、努力すれば成長できるという達成感を味わってもらうことを大切にしています。それが英語だけでなく、学び全体の原動力

力になりますから。

二人は、英語以外ではどんな科目が印象に残っていますか。

鈴木 例えば「比較経営論」では、「国際経営論」での学びを基礎に国内大手メーカーの具体的な国際戦略を勉強しました。自身の興味、関心を自ら深めていけるのが本学での学びの醍醐味です。多くの先生の人脈を頼って、より専門的な話を聞きに行ったりもしました。

松浦 知識の習得が中心の高校までとは違い、なぜそうなったのかまで追求することが重要だと私も授業を受けるなかで感じるようになりました。「国際マーケティング論」の授業を受け、企業のマーケティング戦略の成功、失敗の理由を仲間と自分たちなりに議論したりしていました。

教員が、授業やゼミで意識していることはありますか。

岩重 二人の話につながれば、事象の背



岩重聡美 (いわしげ・さとみ)

長崎県立大学 学長補佐(国際交流・留学支援担当)
経営学部 国際経営学科 学科長

福岡大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得満期退学。2008年長崎県立大学経済学部教授、16年より国際経営学科の学科長。博士(国際学)。



松浦明日翔 (まつうら・あすか)

長崎県立大学 経営学部
国際経営学科 4年

福岡県出身。中学時代から英語が好きで、大学進学にあたって経営にも興味があったことから、長崎県立大学の国際経営学科に。



鈴木直緒 (すずき・なお)

長崎県立大学 経営学部
国際経営学科 3年

福島県出身。歴史的に海外との交流が盛んで、現在も米軍基地が置かれるなど、国際色豊かな地で国際経営を学びたいと長崎県立大学を選ぶ。

ち上がる過程で自分を見つめ直し、客観視してほしいと思っています。

松浦 まさに私がシンガポールで感じたのは、自分の思いや考えがないと現地スタンプと中身の濃いコミュニケーションはできないということでした。海外のことを勉強するだけではダメなんだと強く思いました。

二人が考えるグローバル社会にお

けるリーダー像、あわせて自身の今後の目標を聞かせてください。

松浦 自分の視点や価値観を押し付けず、多様な考えを理解する。リーダーにはそうした姿勢が求められると思います。私たちはよく、「普通」という言葉を使いますが、国や地域によって、また個人によって「普通」とは異なるもの。社会に出て、そのことは意識していきたいと思いま

す。就職先の日本IBMは、女性活躍にも力を入れている企業。キャリアを積み、グローバルでの女性活躍を後押しするような役割も果たせたらうれしいです。

鈴木 私が国際経営学科で学んだことの一つは、「複眼的思考」の重要性です。どんな意見や物事も、さまざまな角度から眺めることで本質が見えてくる。この思考がリーダーに求められると思います。将来は何らかの形で国際貢献に関わりつつ、地元福島と長崎の活性化につながるような仕事に就くことを目指しています。

最後に岩重先生から、読者へのメッセージをお願いします。

岩重 グローバル経営と一口に言っても、そのあり方は刻々と変化しています。その意味で経営の最前線に立つビジネスリーダーの皆さんから、現場の今を教えてくださいたい。それを踏まえ、教育内容の刷新も図っていきますので、ぜひこれからも長崎県立大学が輩出する人材に注目していただければと思います。

Pick up!
TOEIC®の平均スコアが
入学時から350点以上アップ!

